



学連選抜チーム参戦レポート

○レース概要

日時	: 2018年10月13 - 14日
場所	: 大分いこいの道周辺特設コース／大分スポーツ公園周辺特設コース
カテゴリー	: UCI Asia tour 1.2
参加チーム数	: 20チーム
出場選手	: 富尾大地（鹿屋体大） 石井駿平（鹿屋体大） 重満丈（鹿屋体大） 西原裕太郎（鹿屋体大） 竹村拓（明治大）
スタッフ	: 高宮正嗣（監督） 西沢倭義（セクレタリー） 脇野栄治（メカ） 岡野春香（マッサー）

○レースレポート 1日目

1kmのコースを30周のクリテリウムにて争われました。序盤から位置取りに苦戦し、コーナーを立ち上がる度にポジションを落として後ろに下がってしまう展開になりました。結果としては完走が重満1名のみのものでした。各選手のレース後のコメントを聞くと「前に上がるタイミングがわからなかった」ということが多く話されていたので、レース経験の少なさが少し露呈してしまったのかなと少し感じました。

○レースレポート 2日目

10kmのコースを15周するロードレースにて争われました。コースは急カーブとアップダウンを含むもので、ダイナミックなクリテリウムのような印象を受けました。各選手の目標として「逃げに乗ること」や「上位20位以内での完走」を目標にスタート。徐盤からアタックを試みるも、なかなか逃げが決まらないままレースが進行し、レース中盤で10名程度の逃げ集団が形成されたのですが、学連選抜チームを送り込むことができませんでした。結局、その集団が吸収されるタイミングでメイン集団が活性化し、残り20kmから2名のナショナルチームを含む3名が逃げを決め、最後まで逃げ切るといった展開でした。序盤のアタック合戦で消耗した石井・西原・竹村の3名は中盤でDNF、完走した2名は最後の展開に加わることが出来ませんでした。レース後の反省では、同年代の選手たちが活躍したことに各選手が触れており、不足しているところや、無駄にパワーを使ってしまったところなど、具体的に「何がどう足りないのか」を認識していたので、次回に期待したいと感じました。

○総括

今回は直前に体調を崩し、選手・スタッフの皆さんに迷惑を掛けてしまい、大変申し訳ありませんでした。

参加した選手は現在の己の力とプロ選手との間に明確な差があることを痛感したと思います。2日間を通して、幅員が狭く、集団前方の位置をキープすることだけでも難しいレースとなったので、今まで出場していたレースとは全くの別物だと感じたはずです。この経験を機に、日常のトレーニングや生活での意識が変わり、今後の競技人生のプラスになってくれれば、嬉しく思います。

また、2日目のレースでは同年代の選手が活躍したのを目の当たりにして、彼らにとっても我々スタッフ陣にとっても、いい刺激になりました。

今回このような国際レースでの監督をさせて頂きまして、誠にありがとうございました。

今後とも何卒宜しくおねがい申し上げます。

シエルブルー鹿屋

GM 兼監督 高宮正嗣